

**立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金
企画研究プロジェクトⅢ(助教研究支援) 2021年度研究成果報告書**

研究代表者	所属・職名	氏名	
	立教大学コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科・助教	山口 綾乃	印
研究課題名	幸福感、感情、健康の文化的規定要因研究 3 (継続)		
研究期間	2021年度		
研究経費	100千円		

【 研究の概要 】

人生 100 年時代といわれるなかで、人はいかに生きていくのか?といった人々の幸福感や感謝感情、共感性について、様々な研究の取り組みがなされてきている。さらに、新型コロナウイルスという新しい種類のウイルスが世界中を震撼させている。新型コロナウイルスが世界中で私たちの生活に影響を与えており、例えば、ソーシャルディスタンスを保ちながらコミュニケーションをとるといった新しい生活様式を余儀なくされている。今回のプロジェクトについては、今回採択された科学研究費基盤 C プロジェクト (代表研究者として: The

Reciprocal Relationship Between Gratitude and Life Satisfaction in Japan: Evidence from Longitudinal Studies) とは完全に切り離し、独立したプロジェクトとして立ち上げ、近い将来に関わる予定の国際共同プロジェクトのパイロット調査を目的とする。これまでに行われてきたポジティブ感情研究は欧米で行われたものが多く、最近ではポジティブ感情に関して文化による対人関係の在り方や他者とのつながりからの信頼関係、共感力、回復力 (レジリエンス) と共にマインドフルコミュニケーションという新しい視点を考慮に入れる傾向がある。そのため、日本人の中高齢層のウェルビーイングにおける変化を見るために、多様なコミュニケーションとその幸福感、健康レベルを検証しながらコミュニティ・ウェルビーイング (コミュニティにおける幸福感) を新たに提言する。

本稿は、①多様なコミュニケーションとその幸福感、健康レベルに関する経緯と現状、②文化による対人関係の在り方や他者とのつながりからの信頼関係、共感力、回復力 (レジリエンス) について文献レビューを行う③問題の概要を紹介し、④縦断的研究ならびに横断的研究からのアプローチにおいて、多様なコミュニケーションとその幸福感、健康レベルを検証することを目的とする。

近年、公衆衛生学、ヘルスサイエンス、コミュニケーション領域 (ヘルスコミュニケーション領域) では、新型コロナウイルスなどの感染症の治療法などを探るために、新しい視点である AI (Artificial Intelligence)、コミュニケーション、社会と健康についての研究が注目されているため、レビューを行った。

【 研究の成果 】 (今後発表予定のものを含む)

今年は、科研費のプロジェクトとは完全に切り離し、独立したプロジェクトとして新しく立ち上げたため、パイロット研究としてのしっかりと論文レビューを行うことができ、研究基礎・土台作りをしっかりと行うことができた。現在抱えている論文のうち、International Journal of Psychological Studies, という学術誌に 1 本の論文が採択された。この研究成果は、ミシガン大学、ウィスコンシン大学、スタンフォード大学やほかの大学、並びに National Institutes of Health (NIH) の傘下にある National Institute of Aging in the US に掲載される予定である。

さらに、2022 年 5 月 26 日から 30 日に行われる国際コミュニケーション学会、ヘルスコミュニケーションセッションにて 7 つの研究論文の審査、査読委員を拝命し、審査、査読を行いました。ヘルスコミュニケーションセッションでしたので、新型コロナウイルス感染症についての研究がとても多い印象を持ちました。また、新しいタイプの研究として、AI とコミュニケーション、社会と健康というテーマの研究がございました。審査、査読を通してとても良い経験をさせていただきました。私たちの研究にもぜひ取り入れてつなげていければと思っております。